

1

問題のページへ

$$(1) I_0 = \frac{(-1)^0}{0!} \int_0^2 x^0 e^x dx = \int_0^2 e^x dx = [e^x]_0^2 = e^2 - 1$$

$$\begin{aligned} \text{また, } I_n &= \frac{(-1)^n}{n!} \int_0^2 x^n e^x dx = \frac{(-1)^n}{n!} \left\{ [x^n e^x]_0^2 - \int_0^2 n x^{n-1} e^x dx \right\} \\ &= \frac{(-1)^n}{n!} 2^n e^2 - \frac{(-1)^n}{(n-1)!} \int_0^2 x^{n-1} e^x dx = \frac{(-1)^n 2^n e^2}{n!} + I_{n-1} \end{aligned}$$

$$\text{すると, } I_1 = \frac{-2e^2}{1!} + (e^2 - 1) = -e^2 - 1, \quad I_2 = \frac{4e^2}{2!} + (-e^2 - 1) = e^2 - 1 \text{ より,}$$

$$I_3 = \frac{-8e^2}{3!} + (e^2 - 1) = -\frac{1}{3}e^2 - 1$$

$$(2) \quad 0 \leq x \leq 2 \text{ に対して } e^x \leq e^2 \text{ より,}$$

$$\frac{1}{n!} \int_0^2 x^n e^x dx \leq \frac{1}{n!} \int_0^2 x^n e^2 dx = \frac{e^2}{n!} \left[ \frac{x^{n+1}}{n+1} \right]_0^2 = \frac{2^{n+1} e^2}{(n+1)!}$$

ここで,  $n \geq 2$  のとき,

$$\frac{2^{n+1}}{(n+1)!} = \frac{2^2}{1 \cdot 2} \cdot \frac{2^{n-1}}{3 \cdot 4 \cdot 5 \cdots (n+1)} = 2 \left( \frac{2}{3} \right)^{n-1} \cdots \cdots (*)$$

なお,  $n=1$  のときも  $\frac{2^2}{2!} = 2 \left( \frac{2}{3} \right)^0$  となり, (\*) は成立している。

$$\text{よって, } \frac{1}{n!} \int_0^2 x^n e^x dx \leq 2e^2 \left( \frac{2}{3} \right)^{n-1}$$

$$(3) \quad (1) \text{ から, } I_n - I_{n-1} = \frac{(-1)^n 2^n e^2}{n!} \text{ より, } \frac{(-1)^n 2^n}{n!} = \frac{1}{e^2} (I_n - I_{n-1}) \quad (n \geq 1)$$

$$\sum_{k=1}^n \frac{(-1)^k 2^k}{k!} = \frac{1}{e^2} \sum_{k=1}^n (I_k - I_{k-1}) = \frac{1}{e^2} (I_n - I_0) = \frac{1}{e^2} (I_n - e^2 + 1)$$

$$\text{よって, } \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k 2^k}{k!} = 1 + \frac{1}{e^2} (I_n - e^2 + 1) = \frac{1}{e^2} (I_n + 1)$$

$$\text{さて, (2) より, } |I_n| = \frac{1}{n!} \int_0^2 x^n e^x dx \leq 2e^2 \left( \frac{2}{3} \right)^{n-1}$$

$n \geq 2$  のとき,  $|I_n| \rightarrow 0$  より  $\lim_{n \rightarrow \infty} I_n = 0$  となり,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k 2^k}{k!} = \frac{1}{e^2}$$

### [ 解 説 ]

(3)が本題ですが, それを解くのに無理が生じないように, (1)と(2)が設けられています。配慮の深い問題です。

2

問題のページへ

$$(1) \text{ 二項定理より, } (a+b)^4 = {}_4C_0a^4 + {}_4C_1a^3b + {}_4C_2a^2b^2 + {}_4C_3ab^3 + {}_4C_4b^4 \\ = a^4 + 4a^3b + 6a^2b^2 + 4ab^3 + b^4$$

$$(a-b)^4 = \{a+(-b)\}^4 = a^4 - 4a^3b + 6a^2b^2 - 4ab^3 + b^4$$

$$(2) \text{ まず, } a+b=s, a-b=t \text{ とおくと, } a = \frac{1}{2}(s+t), b = \frac{1}{2}(s-t) \text{ より,}$$

$$A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} s+t & s-t \\ s-t & s+t \end{pmatrix}$$

$$\text{これより, } A^2 = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} s+t & s-t \\ s-t & s+t \end{pmatrix} \begin{pmatrix} s+t & s-t \\ s-t & s+t \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} s^2+t^2 & s^2-t^2 \\ s^2-t^2 & s^2+t^2 \end{pmatrix}$$

$$A^4 = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} s^2+t^2 & s^2-t^2 \\ s^2-t^2 & s^2+t^2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} s^2+t^2 & s^2-t^2 \\ s^2-t^2 & s^2+t^2 \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} s^4+t^4 & s^4-t^4 \\ s^4-t^4 & s^4+t^4 \end{pmatrix} \\ = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} (a+b)^4 + (a-b)^4 & (a+b)^4 - (a-b)^4 \\ (a+b)^4 - (a-b)^4 & (a+b)^4 + (a-b)^4 \end{pmatrix}$$

$$(3) (2) \text{ から, } A^n = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} s^n+t^n & s^n-t^n \\ s^n-t^n & s^n+t^n \end{pmatrix} \text{ と予測できるので, これを数学的帰納法によ}$$

って証明する。

(i)  $n=1$  のとき 明らかに成立する。

(ii)  $n=k$  のとき  $A^k = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} s^k+t^k & s^k-t^k \\ s^k-t^k & s^k+t^k \end{pmatrix}$  と仮定する。

$$A^{k+1} = A^k A = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} s^k+t^k & s^k-t^k \\ s^k-t^k & s^k+t^k \end{pmatrix} \begin{pmatrix} s+t & s-t \\ s-t & s+t \end{pmatrix} \\ = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} 2(s^{k+1}+t^{k+1}) & 2(s^{k+1}-t^{k+1}) \\ 2(s^{k+1}-t^{k+1}) & 2(s^{k+1}+t^{k+1}) \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} s^{k+1}+t^{k+1} & s^{k+1}-t^{k+1} \\ s^{k+1}-t^{k+1} & s^{k+1}+t^{k+1} \end{pmatrix}$$

よって,  $n=k+1$  のときも成立する。

$$(i)(ii) \text{ より, } A^n = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} (a+b)^n + (a-b)^n & (a+b)^n - (a-b)^n \\ (a+b)^n - (a-b)^n & (a+b)^n + (a-b)^n \end{pmatrix}$$

$$(4) b=1-a \text{ なので, (3) より, } x_n = \frac{1}{2} \{ (a+b)^n + (a-b)^n \} = \frac{1}{2} \{ 1 + (2a-1)^n \}$$

$$0 < a < 1 \text{ から, } -1 < 2a-1 < 1 \text{ となり, } n \text{ のとき } (2a-1)^n \rightarrow 0$$

$$\text{よって, } \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \frac{1}{2}$$

### [ 解 説 ]

(1)を(2)の誘導とすれば, (2)において置き換え  $s, t$  は不要でした。後から気付きました。

3

問題のページへ

(1)  $x(t) = \cos\left(t + \frac{\pi}{4}\right)$ ,  $y(t) = \cos 2t$  に対して  $(x(t), y(t)) = (0, 0)$  とすると,

$$\cos\left(t + \frac{\pi}{4}\right) = 0 \dots\dots\dots, \cos 2t = 0 \dots\dots\dots$$

0  $t < 2\pi$  なので, より  $t + \frac{\pi}{4} = \frac{\pi}{2}, \frac{3}{2}\pi$  となり,  $t = \frac{\pi}{4}, \frac{5}{4}\pi$

より  $2t = \frac{\pi}{2}, \frac{3}{2}\pi, \frac{5}{2}\pi, \frac{7}{2}\pi$  となり,  $t = \frac{\pi}{4}, \frac{3}{4}\pi, \frac{5}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$

をともに満たすのは,  $t = \frac{\pi}{4}, \frac{5}{4}\pi$  のときである。

さて, 速度ベクトル  $\vec{v}$  は,  $\vec{v} = (x'(t), y'(t)) = \left(-\sin\left(t + \frac{\pi}{4}\right), -2\sin 2t\right)$  より,

$t = \frac{\pi}{4}$  のとき  $\vec{v} = (-1, -2)$ ,  $t = \frac{5}{4}\pi$  のとき  $\vec{v} = (1, -2)$  となる。

(2) 0  $t < 2\pi$  に対して,  $x(\pi + t) = \cos\left(\pi + t + \frac{\pi}{4}\right) = -\cos\left(t + \frac{\pi}{4}\right) = -x(t)$

$$y(\pi + t) = \cos 2(\pi + t) = \cos 2t = y(t)$$

よって, 曲線  $C$  の 0  $t \pi$  の部分と,  $\pi t 2\pi$  の部分とは  $y$  軸対称である。

さて,  $x(2\pi + t) = x(t)$ ,  $y(2\pi + t) = y(t)$  なので, 0  $t 2\pi$  における曲線  $C$  と  $-\frac{\pi}{4} t \frac{7}{4}\pi$  における曲線  $C$  とは一致する。

そこで,  $-\frac{\pi}{4} t \frac{7}{4}\pi$  に対して,  $x(t) = \frac{1}{\sqrt{2}}(\cos t - \sin t)$  と変形すると,

$$x\left(\frac{3}{2}\pi - t\right) = \frac{1}{\sqrt{2}}\left\{\cos\left(\frac{3}{2}\pi - t\right) - \sin\left(\frac{3}{2}\pi - t\right)\right\} = \frac{1}{\sqrt{2}}(-\sin t + \cos t) = x(t)$$

$$y\left(\frac{3}{2}\pi - t\right) = \cos 2\left(\frac{3}{2}\pi - t\right) = \cos(3\pi - 2t) = -\cos 2t = -y(t)$$

よって, 曲線  $C$  の  $-\frac{\pi}{4} t \frac{3}{4}\pi$  の部分と,  $\frac{3}{4}\pi t \frac{7}{4}\pi$  の部分とは  $x$  軸対称である。

(3) (1)より,

$$x'(t) = -\sin\left(t + \frac{\pi}{4}\right)$$

$$y'(t) = -2\sin 2t$$

曲線  $C$  の  $-\frac{\pi}{4} t \frac{3}{4}\pi$  に対する  $(x(t), y(t))$  の増減は右表のようになる。

$t$	$-\frac{\pi}{4}$	...	0	...	$\frac{\pi}{2}$	...	$\frac{3}{4}\pi$
$x'(t)$	0	-		-		-	
$x(t)$	1	↘	$\frac{\sqrt{2}}{2}$	↘	$-\frac{\sqrt{2}}{2}$	↘	-1
$y'(t)$		+	0	-	0	+	
$y(t)$	0	↗	1	↘	-1	↗	0

また(2)より,  $\frac{3}{4}\pi t \frac{7}{4}\pi$

の部分は,  $-\frac{\pi}{4} t \frac{3}{4}\pi$  の部分を  $x$  軸対称すると得られるので,  $-\frac{\pi}{4} t \frac{7}{4}\pi$  すなわち 0  $t < 2\pi$  における  $C$  の概形は次の図のようになる。



4

問題のページへ

- (1) 求める単位ベクトルを  $\vec{e} = (x, y, z)$  とおく。

$$\vec{OA} \cdot \vec{e} = 0 \text{ より, } ax + by = 0 \dots\dots\dots$$

$$\vec{OC} \cdot \vec{e} = 0 \text{ より, } x + y + z = 0 \dots\dots\dots$$

$$\text{より, } (x, y) = k(b, -a) \text{ ( } k \text{ は実数)}$$

から,  $z = -x - y$  なので,

$$(x, y, z) = k(b, -a, a - b)$$

$$|\vec{e}| = 1 \text{ より, } 1 = |k| \sqrt{b^2 + (-a)^2 + (a - b)^2} \text{ から,}$$

$$k = \pm \frac{1}{\sqrt{b^2 + (-a)^2 + (a - b)^2}} = \pm \frac{1}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}}$$

$$\text{よって, } \vec{e} = \pm \frac{1}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}}(b, -a, a - b)$$

$$\text{すると, } \vec{OB} \cdot \vec{e} = \pm \frac{bc + ad - bd}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}} \text{ より, } |\vec{OB} \cdot \vec{e}| = \frac{|bc + ad - bd|}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}}$$

ここで,  $a \geq 0, b \geq 0, c \geq 0, d \geq 0$  なので,  $bc + ad - bd = bc + d(a - b) \geq 0$  となり,

$$|\vec{OB} \cdot \vec{e}| = \frac{bc + ad - bd}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}}$$

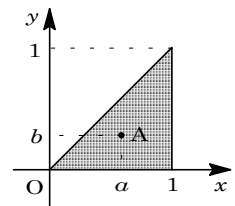
- (2) 四面体 OABC において, OAC を底面とすると, 高さは  $|\vec{OB} \cdot \vec{e}|$  となる。

$$\begin{aligned} \text{OAC} &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{OA}|^2 |\vec{OC}|^2 - (\vec{OA} \cdot \vec{OC})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{3(a^2 + b^2) - (a + b)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)} \end{aligned}$$

四面体 OABC の体積を  $V$  とすると, (1) より,

$$V = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)} \cdot \frac{bc + ad - bd}{\sqrt{2(a^2 + b^2 - ab)}} = \frac{1}{6} (bc + ad - bd)$$

- (3) まず, 点 A( $a, b, 0$ ) の位置を  $S$  内でいったん固定した後, 点 B( $c, 0, d$ ) を  $T$  内で動かし,  $V$  が最大になるときの点 B の位置を求める。次に, この状態を保ったまま, 点 A を  $S$  内で動かし,  $V$  の最大値を求める。



なお,  $a = b = 0$  のときは, 点 A が原点 O と一致するので不適である。

- (i) 点 A( $a, b, 0$ ) を  $a > b > 0$  の位置に固定したとき

$$V = \frac{1}{6} \{(a - b)d + bc\} \text{ となるので, } V \text{ は } d \text{ の単調増加関数であり, } 0 \leq d \leq 1,$$

$0 \leq c \leq 1$  より,  $c = d = 1$  のとき  $V$  は最大になる。

$$\text{このとき, } V = \frac{1}{6} (a - b + b) = \frac{1}{6} a \text{ である。}$$

そこで、点 A を  $S$  内で動かすと、 $V$  は  $a=1$  で最大となり、その値は  $\frac{1}{6}$  である。

よって、 $a=c=d=1$ 、 $0 < b < 1$  のとき、 $V$  は最大値  $\frac{1}{6}$  をとる。

(ii) 点 A( $a, b, 0$ ) を  $a > b > 0$  の位置に固定したとき

$V = \frac{1}{6}ad$  となるので、 $V$  は  $d$  の単調増加関数であり、 $0 < d < 1$  より、 $d=1$  のとき  $V$  は最大になる。このとき  $V = \frac{1}{6}a$  である。

そこで、点 A を  $S$  内で動かすと、 $V$  は  $a=1$  で最大となり、その値は  $\frac{1}{6}$  である。

よって、 $a=d=1$ 、 $b=0$ 、 $0 < c < 1$  のとき、 $V$  は最大値  $\frac{1}{6}$  をとる。

(iii) 点 A( $a, b, 0$ ) を  $a=b > 0$  の位置に固定したとき

$V = \frac{1}{6}bc$  となるので、 $V$  は  $c$  の単調増加関数であり、 $0 < c < 1$  より、 $c=1$  のとき  $V$  は最大になる。このとき  $V = \frac{1}{6}b$  である。

そこで、点 A を  $S$  内で動かすと、 $V$  は  $b=1$  で最大となり、その値は  $\frac{1}{6}$  である。

よって、 $a=b=c=1$ 、 $0 < d < 1$  のとき、 $V$  は最大値  $\frac{1}{6}$  をとる。

(i)(ii)(iii)より、 $V$  の最大値は  $\frac{1}{6}$ 、このときの点 A, B の位置は次の 3 種類である。

$$A(1, b, 0), B(1, 0, 1) \quad (0 < b < 1)$$

$$A(1, 0, 0), B(c, 0, 1) \quad (0 < c < 1)$$

$$A(1, 1, 0), B(1, 0, d) \quad (0 < d < 1)$$

### [ 解 説 ]

(2)までは 1999 年に類題が出ています。ただ、(3)の最大値を求めるときに、いわゆる「予選 決勝戦」という 1 文字固定の解法を用いる必要があります。上の解では条件のきつい点 A をとりあえず固定し、点 B を動かすという方法で解きました。

5

問題のページへ

(1)  $n$  個の電球を左から  $L_1 \sim L_n$  とすると、色のパターンは  $2^n$  通りできる。

$L_1$  が赤のとき、色の変化が 1 回だけなのは、赤 青の変化が起こった後は色の変化がない場合である。すると、初めて青になる電球は  $L_2 \sim L_n$  のいずれかなので、この場合は  ${}_{n-1}C_1$  通りある。

よって、左端が赤色で色の変化が 1 回だけ起きる確率は、 $\frac{{}_{n-1}C_1}{2^n} = \frac{n-1}{2^n}$  である。

(2) (1)と同様に、 $L_1$  が青のとき色の変化が 1 回だけの確率は  $\frac{n-1}{2^n}$  であり、合わせて

$$\frac{n-1}{2^n} \times 2 = \frac{n-1}{2^{n-1}}$$

また、色の変化のない確率は、明らかに  $\frac{1}{2^n} \times 2 = \frac{1}{2^{n-1}}$  である。

よって、色の変化が少なくとも 2 回起きる確率は、

$$1 - \left( \frac{n-1}{2^{n-1}} + \frac{1}{2^{n-1}} \right) = 1 - \frac{n}{2^{n-1}}$$

(3) (1)と同様に、 $L_1$  が赤のとき、色の変化が  $m$  回起きる確率は  $\frac{{}_{n-1}C_m}{2^n}$  である。

$L_1$  が青の場合も同じ確率なので、色の変化がちょうど  $m$  回起きる確率を  $P(m)$  とすると、

$$P(m) = \frac{{}_{n-1}C_m}{2^n} \times 2 = \frac{{}_{n-1}C_m}{2^{n-1}}$$

(4) 色の変化の回数の期待値を  $E$  とすると、

$$\begin{aligned} E &= \sum_{m=0}^{n-1} mP(m) = \sum_{m=0}^{n-1} m \cdot \frac{{}_{n-1}C_m}{2^{n-1}} = \frac{1}{2^{n-1}} \sum_{m=0}^{n-1} \frac{m(n-1)!}{m!(n-1-m)!} \\ &= \frac{1}{2^{n-1}} \sum_{m=1}^{n-1} \frac{m(n-1)!}{m!(n-1-m)!} = \frac{n-1}{2^{n-1}} \sum_{m=1}^{n-1} \frac{(n-2)!}{(m-1)!(n-1-m)!} \\ &= \frac{n-1}{2^{n-1}} \sum_{m=1}^{n-1} {}_{n-2}C_{m-1} = \frac{n-1}{2^{n-1}} \cdot (1+1)^{n-2} = \frac{n-1}{2} \end{aligned}$$

### [ 解 説 ]

$n = 6$  の場合が、文系で出題されています。なお、(4)は実質的に、組合せの公式  $k {}_n C_k = n {}_{n-1} C_{k-1}$  を用いています。